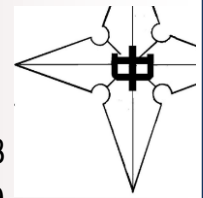


# 南浦和中だより



〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909

## 『ワインレッドの心』

校長 おお うち のり かず 大河内 範一

皆様、新春のお慶びを申し上げます。本年も笑顔いっぱい、幸せいっぱいの一年になりますように！

日本各地から雪だよりが届くと胸が高鳴ってくる。それは「スキーシーズン」という素敵な季節の始まりだからだ。まあ、近年はスキーに行く頻度は激減してしまったが、スキー場で美しく整備された朝一番のゲレンデに、シュプール（スキー滑走の軌跡）を描いている自分の姿を想像するとウキウキしてくる。3月のたかつえスキー場では、どのくらいの雪質が我々を待っていてくれるのか、今から楽しみにしている。

スキーは高校から始めて夢中になったのだが、滑り込んだのは大学に入ってからだ。大学の授業で「スキー実習」という合宿のような講座があり、自分のレベルアップを目指して参加することにした。実習終盤で疲れが溜まってくる頃、猛吹雪の中で活動する日があった。途中、疲労と寒さで震えていると、担当の指導員さんの提案で、ロッジで休憩することになった。そして、「ここの紅茶が美味しいんだよ」と、なんと指導員さんが実習生全員にごちそうしてくれたのである。それは普通の紅茶ではなく、いちごジャムを溶かしたもので、ワインレッド色の温かい飲み物は、疲れを一気に吹き飛ばし、吹雪に負けずに頑張ろうという気力を湧き起こしてくれた。その甘酸っぱい味は、当時の思い出とともに今でも記憶に残っている。人は苦しい時や辛い時に、些細なことで勇気が湧いたり、気分転換ができたりする。このスキー実習では紅茶だったが、それが相手の言葉掛けやアドバイスだったり、何気ない笑顔や眼差しだったりする。心が潤され活力が湧くきっかけとなる「何か」があることは実に大切である。

そんなスキー愛好家の私であるが、人生で初めて中学3年生の担任をした冬には、クラスの生徒全員の進路が決定するまではスキーを封印しようと思決した。その時点で自分が一番好きなことを我慢するという、いわゆる「願掛け」である。また、「滑る」という行為が、受験生にとって縁起が悪いということも理由の1つであった。スキーシーズンがやってくると、若かりし頃、熱い思いを秘めて受験指導をしていた思い出が、時々蘇ってくるのである。（しかしながら、中学3年生の担任も2回目以降になると、何も気にせずにさっさとスキーに行っていた・・・）

さて、3年生諸君は進路決定に向けて、いよいよ勝負の時を迎える。今まで努力してきた成果が十分に発揮できることを、そして、自分が納得する進路になることを心から祈っている。もし疲れを感じるものがあつたら、紅茶にジャムを溶かして飲んでみてほしい。きっと頭と体だけじゃなく、心も休まるはずだよ。